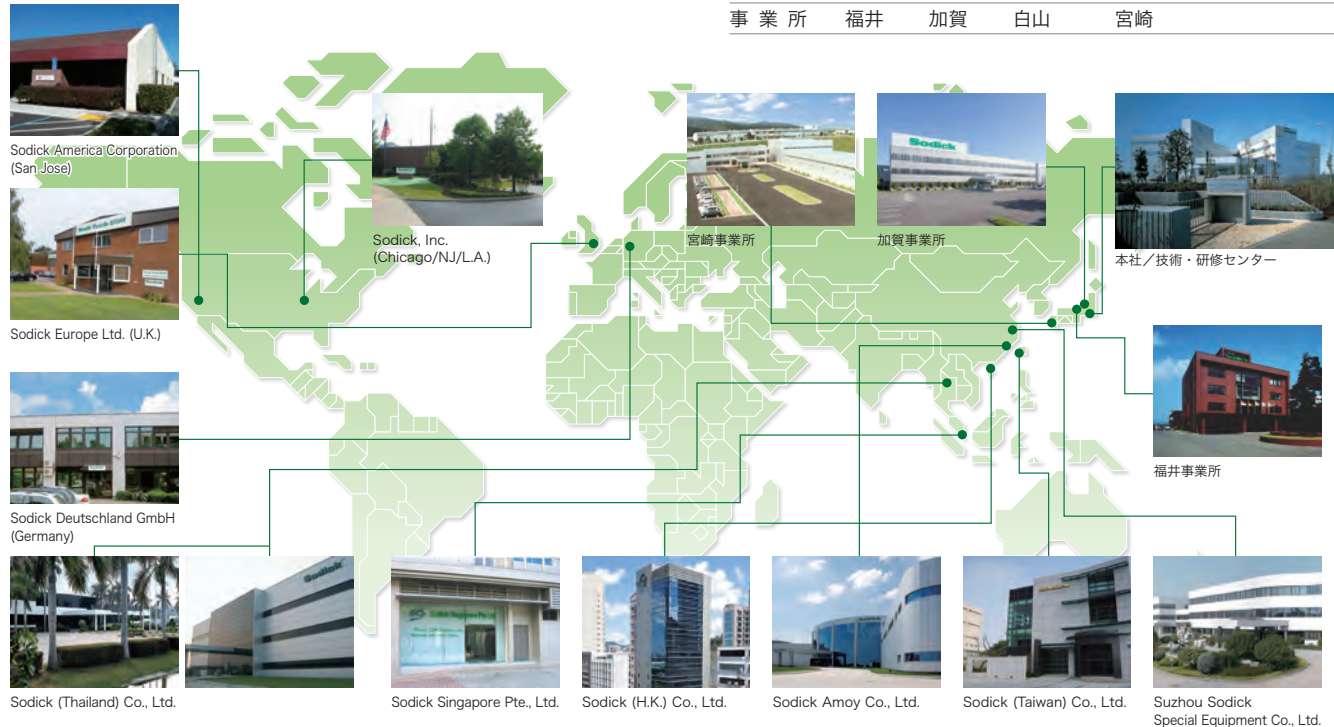


世界の主要拠点 (平成25年3月31日現在)

国内

| | | | | | |
|-------|------------|------------|----------------|------------|------------|
| 本 社 | 横 浜 | | | | |
| 営業拠点 | 仙 台 松 本 | 大 宮 静 岡 | 八 王 子 名 古 屋 | 横 浜 大 阪 | 福 井 福 岡 |
| 事 業 所 | 福 井 | 加 賀 | 白 山 | 宮 崎 | |



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
 TEL: 045-942-3111
 FAX: 045-943-5835
 (証券コード: 6143)



●この冊子はFSC森林認証用紙と植物性インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。
 当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
 お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス ir@sodick.co.jp



株式会社 ソディック

第37期

事業報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

Business Report



未
来
を
創
る

Sodick

Sodick Corporate Highlights

ニュース

代表取締役会長 古川利彦が東京電機大学より 名誉博士号を授与されました

代表取締役会長 古川 利彦は、平成25年3月17日に、東京電機大学より名誉博士号の称号を授与されました。

これは、放電加工における電極無消耗回路を考案し、放電加工機の実用化に大きく貢献したことをはじめ、数値制御彫り放電加工機の開発など、数多くの実績がものづくりの基盤を支える金型加工技術の発展に寄与したことや、その開発精神が若い技術者に受け継がれていることなどが評価されたものです。

ソディックグループでは、これを機に一層、技術による社会貢献に努めてまいります。



新製品

世界初!! 19インチ・マルチタッチ液晶モニタ方式採用 高速・高性能ワイヤ放電加工機「SLシリーズ」

スマートフォンやタブレット端末、精密自動車部品などを代表とする精密金型、精密部品加工においてご好評をいただいている、リニアモータ駆動高速・高性能ワイヤ放電加工機の新シリーズとして、「SLシリーズ」を開発しました。

スマートフォンなどに代表されるマルチタッチ液晶モニタ方式を採用することで、数値制御装置の操作性に革新をもたらす新型数値制御装置「SPW電源」の開発に成功いたしました。革新的な操作性を実現し、必要な作業がすべてワンタッチで操作することができます。



| | | | | |
|-----------------|---|-----|-------------------------|----|
| CONTENTS | Sodick Corporate Highlights | 1 | 当期の業績 | 7 |
| | 株主の皆様へ | 2 | 連結財務諸表(要旨) | 8 |
| | グローバルネットワークとセグメント別概況 | 3-4 | 株式情報/株式分布/会社概要/役員 | 9 |
| | 特集 次世代を担う開発者に聞く ソディックの「ものづくり」へのこだわりとは? | 5-6 | 株主メモ | 10 |

未来を創る



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第37期は、長引く欧州経済の信用不安や中国経済の急減速などございましたが、長らく続いた逆風から抜け出し、飛躍への手ごたえを感じた一年でもありました。

当期は、世界最大級の工作機械の国際見本市であるIMTS(米・シカゴ)、JIMTOF(東京)が開催された年ですが、ソディックグループも出展し、展示ブースは世界各国のユーザーの皆様にお立ち寄りいただき大変活況を呈しました。特にJIMTOFで初お披露目となったワイヤ放電加工機SLシリーズは非常に高い評価を受けました。SLシリーズは、加工性能、操作性、設計思想など従来機とは一線を画す画期的なシリーズであり、自信をもって発表した製品ですが、予想以上の反響に安心いたしました。

また、印象深いものとしては、昨年末の政権交代とその後のアベノミクス効果がございます。昨年末の新政権の誕生後、日本の製造業が苦しんできた超円高が急速に解消し、ソディックグループの第37期決算においても為替差益が発生することとなりました。ソディックグループ

の当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度比15億3百万円増(2.8%増)の550億31百万円となり、利益面では、営業利益は前連結会計年度比14億74百万円減(26.8%減)の40億21百万円、経常利益は円安により為替差益が発生したこともあり前連結会計年度比7億78百万円増(17.0%増)の53億56百万円、当期純利益は前連結会計年度比8億70百万円増(26.2%増)の41億91百万円となりました。この結果、自己資本比率は改善し、当期は37.9%となりましたので、当社の配当政策(株主資本配当率2%以上を目標)に基づき、期末配当は2円の増配とさせていただきます。なお、ソディックグループとしてもアベノミクスへの賛同の意を表すと同時に、少しでも实体经济へ波及することを期待して、利益の一部を国内の社員に一時金として支給させていただきましたことをここに報告いたします。

ソディックの経営理念である「創造」「実行」「苦勞・克服」の信念の下、社業の発展のため精励してまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 金子 雄二

配当について

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE)2%以上を目標として考えております。

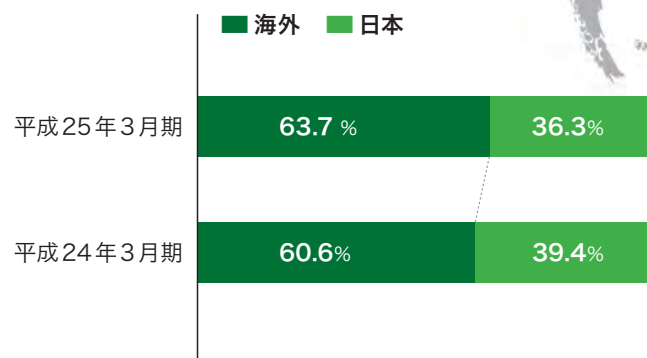
平成25年3月期の利益配分につきましては、基本方針と収益状況から判断し、期末配当を1株当たり8円とし、第2四半期末配当(1株当たり6円)と合わせ、年間配当は1株当たり14円といたします。また、平成26年3月期の第2四半期末及び期末配当金はそれぞれ1株当たり7円とし、年間配当金は1株当たり14円とする予定です。

グローバルネットワーク

世界中のものづくりを支えるために、 開発、生産、販売拠点の グローバル化を促進しています。

グローバル化の加速に伴い、海外売上高は拡大しています。ソディックグループは、日本や欧米などの先進工業国だけでなく、経済成長著しい新興国にも進出しています。その新興市場の代表的地域である中国では、1990年代の初頭より積極的にビジネスを展開しており、中国経済の成長に伴いソディックグループは大きな成果をあげております。同地域における販売・サービス網は、台湾を含めた中華圏に26ヶ所設置された営業・サービス拠点で構成されており、この充実したネットワークにより、お客様が安心して機械をお使いになれるきめ細やかなサービス提供が可能になっています。今後はインド、東南アジア及びブラジルなど新市場にも注力し、世界中の「ものづくり」に一層貢献してまいります。

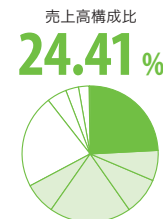
海外売上高比率



セグメント別概況

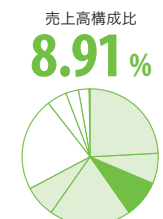
工作機械事業（日本）

国内の製造業においては、スマートフォン関連の需要がみられたことに加え、年度末にかけて回復基調で推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比9億42百万円増（7.5%増）の134億33百万円となりました。



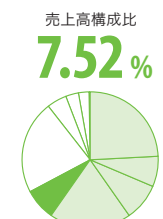
工作機械事業（欧州）

欧州地域では、債務危機の影響により本格的な回復にはいたっておりませんが、自動車産業など輸出関連分野に手堅い設備投資需要がみられました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比94百万円増（2.0%増）の49億6百万円となりました。



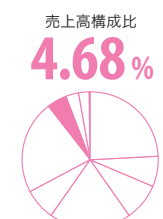
工作機械事業（その他アジア）

当地域では、自動車や二輪車向けの設備投資需要が堅調に推移したことに加え、タイの洪水被害からの復興需要が見られました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比10億32百万円増（33.3%増）の41億37百万円となりました。



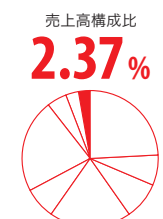
精密金型・精密成形事業

当事業においては精密コネクタなどの精密成形品の製造を行っております。震災やタイ国の洪水で減少していたハイブリッドカー向けの出荷量が回復傾向にありましたが、当事業の売上高は前連結会計年度比3億32百万円減（11.4%減）の25億73百万円となりました。



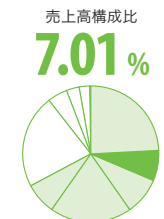
要素技術事業

当事業は、モータ及び制御装置の製造販売、セラミックス製品の製造販売、CAD/CAMシステムの販売から構成されております。当事業の売上高は前連結会計年度比5億71百万円減（30.4%減）の13億6百万円となりました。



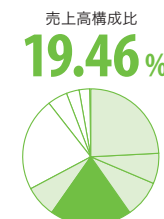
工作機械事業（北・南米）

北米地区では、医療機器向けや航空機産業、エネルギー産業向けの需要が堅調に推移したことに加え、自動車向けの設備投資が順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比2億76百万円増（7.7%増）の38億55百万円となりました。



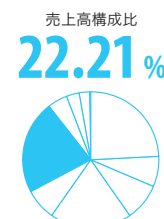
工作機械事業（中華圏）

中華圏においては、上半期はスマートフォンやタブレット端末などの精密電子機器から家電、自動車関連向けまで幅広い分野で設備投資が好調でしたが、下半期より景気減速の影響により、需要に一服感がありました。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比30億95百万円減（22.4%減）の107億8百万円となりました。



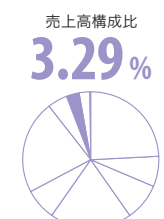
産業機械事業

当事業の主力製品である精密射出成形機は、主要な需要先であるLED向けの需要が低調に推移しました。なお、前期末までに検収予定だった大型案件の一部が当連結会計年度に売上計上されているため、売上は増加しております。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比46億55百万円増（61.5%増）の122億21百万円となりました。



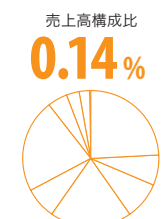
食品機械事業

食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。コンビニエンスストア用製品向けの需要が順調でしたが、一部の案件では顧客都合による設備の延期がみられました。また、当事業は受注から納品、検収まで半年以上かかる案件も多いため、四半期単位でみた場合には業績にばらつきが生じやすい傾向があります。上記の結果、当事業の売上高は前連結会計年度比14億73百万円減（44.9%減）の18億9百万円となりました。



その他の事業

その他の事業は、放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。当事業の売上高は前連結会計年度比26百万円減（24.9%減）の79百万円となりました。



ソディックの「ものづくり」へのこだわりとは？

圧倒的な高性能を誇るワイヤ放電加工機・SLシリーズにソディックの開発力・強みがどう活かされているのか、開発に携わった4名に聞きました。

SLシリーズ

圧倒的な高性能
リニアモータ駆動
高速・高性能ワイヤ放電加工機



SLシリーズは、19インチ・マルチタッチ液晶型数値制御装置の採用によりスマートフォン感覚の高い操作性を備え、新開発のSPW電源と高速加工対応ワイヤ電極線「はやぶさ」の使用で加工速度を最大50%最大化するなど圧倒的なパフォーマンスを発揮します。

ソディックのものづくりにおける「こだわり」について教えてください。

米田

今回「圧倒的な高性能」を命題に、全社一丸となって開発に取り組んだのがSLシリーズです。私は機械を制御する数値制御装置の開発を担当していますが、ソディックは駆動系、制御系、機械系、電気系という機械におけるコア部分の技術をすべて自社開発しているんです。いわば、放電加工機は、「ソディックの開発力と技術力の結集」ではないでしょうか。

上田

同感です。私が担当しているのはワイヤ電極線という、金ノコで言えばノコギリの刃に該当する部分ですが、実は放電加工機メーカーでワイヤ電極線を作っているのは、世界でもソディックだけなんです。素材部分も含めて自社開発しているというのは、他社にはない大きな強みだと思います。

米田

社外から部品を調達していただくこともできますが、調達部品を集めて作った機械に我々が思うとおりの動きをさせようとしても、やはり限界があるんです。だったら、最適なものを自分たちで作るしかない。「問題解決のために必要なものが世の中にないなら、自分たちで作って出していこう」というのが、創業当初から受け継がれてきたソディックの開発精神ですよね。

戸村

そうやってカスタマイズを重ねてきたことが、開発力や技術力を向上させ、独自性の高い製品に結実し、競争力の源泉になっていると感じます。私は電源装置の中の放電回路を開発していますが、回路というのは非常に繊細で、例えば電流を流す量の調整を少しでも誤ると、すぐに装置が壊れたりプリント基板が燃えたりするんです。実験に失敗はつきものとはいえ、最初の頃はかなり落ち込みました。けれども、失敗してもあきらめないことが、実は開発において一番大切なポイントだと思います。



Sodick (Thailand) Co., Ltd.
「機械設計」
亀岡 隆介



放電加工機事業部 研究開発部
「電源開発」
戸村 俊輔



Sodick America Corporation
「数値制御装置開発」
米田 康治



ソディック エフ・ティ EWS 事業部
「ワイヤ電極線開発」
上田 利幸

亀岡

まさにそのとおりですね。私の担当は機械部分で、皆さんが開発されたすべての技術を搭載する、いわば土台になるところです。縁の下の力持ち的存在ですが、ここがうまく動かないとせっかくの技術を活かせなくなってしまうので、かなり試行錯誤しました。ソディックは放電加工機において世界トップシェアを誇っていますが、先頭を走るということは、教科書に載っていない新たなことに挑戦し続けるということです。だから当然、苦勞も多い。けれども、結局は最後まであきらめなかったものが製品になっていくんだと思います。

上田

忘れてはいけないのは、我々の開発の原点は「こういう機械がほしい」というお客様のニーズだということ。どうすればそれを実現できるかを常に考えねばなりません。だから、アイデアを思いついたら、まずやってみる。失敗したらまた考えて、うまくいくまでひたすらトライアンドエラーを繰り返す。

亀岡

その過程は、まさにソディックの開発理念であり社名の由来でもある「創造 (So)」「実行 (di)」「苦勞・克服 (ck)」そのものです。ソディックは、研究も実験もやりたいようにやらせてくれますよね。私は今回設計を担当させてもらったのですが、私のような若手にもどんどん責任ある仕事を任せしてくれる。こうした企業風土は開発に携わる者にとって非常にうれしいですし、やりがいも感じます。

戸村

こうした開発精神を受け継いでいくとともに、我々の次の世代にもしっかりと伝えていきたいと思っています。

今後の目標についてお聞かせください。

戸村

常にアンテナを高くして、最新の知識や情報にキャッチアップしていく必要性を感じています。多様な知識や情報を積極的に吸収しながら、自分自身を日々進化させていきたいですね。

亀岡

私も、自分の担当分野に関することはもちろんですが、他の領域からも思いがけないヒントを得られることもあるので、様々な勉強、研究をし、これまでにないものを作りたいと思います。

上田

今回皆さんと一緒に開発に取り組んで、ワイヤ電極線開発にはまだ多くの可能性を秘めた未知の領域があることを再認識しました。多様な技術をスムーズに連携させられるのは、やはり社内で開発を行っている強みです。今後も一層の情報共有を進め、各部署で蓄積してきた技術を緊密に連携させて、より良い製品を生み出していきたいと思っています。

米田

ソディックの製品がお客様に支持されている理由の一つは高性能で長寿命という点だと思います。これからもお客様の声に耳を傾け、「世の中にないものは自分たちで作る」という開発精神を貫き、ものづくりの発展に貢献していきたいですね。

当期の概況

当連結会計年度のわが国経済は、雇用情勢は依然として厳しかったものの、企業の設備投資は下げ止まり、生産活動も持ち直しの動きがみられました。また、昨年末の政権交代による期待感から円安・株高が進行するなど、年度末にかけて景況感が大幅に改善しました。海外経済においては、米国経済で緩やかな景気回復が継続したほか、欧州経済でも、キプロス問題などあったものの、くすぶり続けてきた債務危機が最悪期を脱したほか、上半期において減速した中国経済にも下げ止まりの気配がみられました。

このような環境の下、当社グループは経営資源の効率化と経営スピードの向上を図るため、平成24年7月1日付で株式会社ソディックプラスチックを吸収合併し、事業セグメントの垣根を越えた組織の再編を行いました。製造面においても、一昨年のタイ洪水からの復興計画の一環として建設したタイの新工場が本格稼働を開始しており、グローバル規模での生産体制の再編に着手いたしました。営業面においては、家電や自動車など幅広い製品の生産拠点となりつつあり、将来性豊かな市場であるベトナムに販売現地法人を設立したほか、世界最大級の工作機械の展示会である米国開催「IMTS2012」や日本開催「JIMTOF2012」への出展をはじめ、世界各地で多数の展示会に参加し、積極的な活動を行いました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前連結会計年度比15億3百万円増(2.8%増)の550億31百万円となりました。また利益

面では、営業利益は前連結会計年度比14億74百万円減(26.8%減)の40億21百万円、年度末にかけて急速に進行した円安により為替差益が発生したこともあり、経常利益は前連結会計年度比7億78百万円増(17.0%増)の53億56百万円、当期純利益は前連結会計年度比8億70百万円増(26.2%増)の41億91百万円となりました。

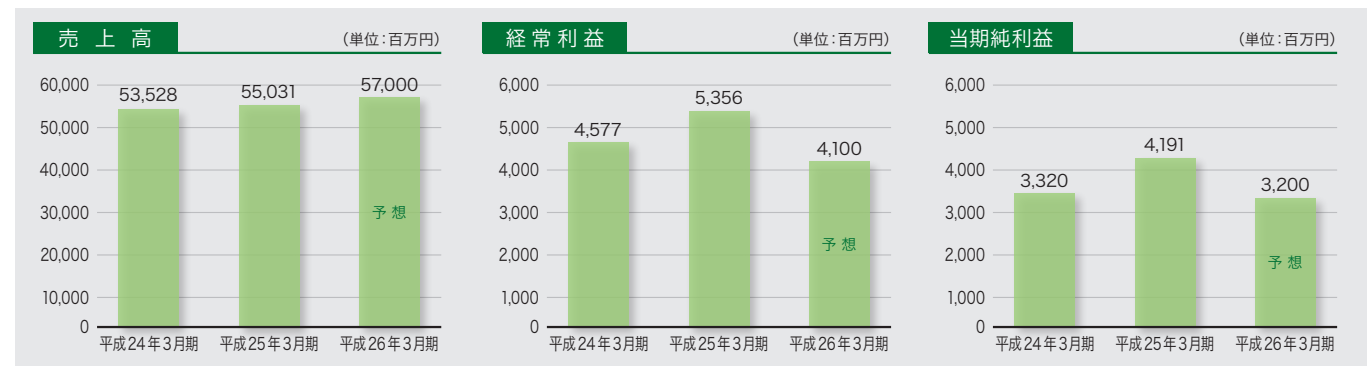
次期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内においては震災からの復興需要に加え、アベノミクスによる景況感の改善を背景とした景気回復が期待されます。海外経済においても、米国経済は順調な景気回復が見込まれ、欧州経済も金融危機が最悪期を脱して順調な回復が期待できるほか、アジア圏経済も堅調な成長が維持される見通しです。需要環境は回復基調で推移することが期待できます。

平成26年3月期の当社グループの業績は、連結売上高570億円(前連結会計年度比3.6%増)、連結営業利益46億円(前連結会計年度比14.4%増)、連結経常利益41億円(前連結会計年度比23.5%減)、連結当期純利益32億円(前連結会計年度比23.7%減)と予想しております。

※上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート94円、対ユーロ期中平均レートは121円です。

連結業績ハイライト



連結貸借対照表

| 科目 | 期別 | 前期(36期) 平成24年3月31日 現在 | 当期(37期) 平成25年3月31日 現在 |
|----------------|-------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 資産の部 | | |
| 流動資産 | | 63,536 | 62,688 |
| 固定資産 | | 29,456 | 32,352 |
| 有形固定資産 | | 22,408 | 23,458 |
| 無形固定資産 | | 3,527 | 3,583 |
| 投資その他の資産 | | 3,521 | 5,310 |
| 資産合計 | | 92,993 | 95,041 |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | | 41,899 | 30,919 |
| 固定負債 | | 21,376 | 28,088 |
| 負債合計 | | 63,275 | 59,007 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | | 31,851 | 35,395 |
| 資本金 | | 20,775 | 20,775 |
| 資本剰余金 | | 5,879 | 5,879 |
| 利益剰余金 | | 6,891 | 10,435 |
| 自己株式 | | △ 1,694 | △ 1,695 |
| その他の包括利益累計額 | | △ 2,198 | 595 |
| 新株予約権 | | 23 | — |
| 少数株主持分 | | 41 | 42 |
| 純資産合計 | | 29,718 | 36,033 |
| 負債純資産合計 | | 92,993 | 95,041 |

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

| 科目 | 期別 | 前期(36期) 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日 | 当期(37期) 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 |
|-------------|-----|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | 売上高 | | 53,528 |
| 売上総利益 | | 17,570 | 16,734 |
| 営業利益 | | 5,495 | 4,021 |
| 経常利益 | | 4,577 | 5,356 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 4,473 | 5,170 |
| 当期純利益 | | 3,320 | 4,191 |
| 包括利益 | | 3,317 | 7,000 |

連結キャッシュ・フロー計算書

| 科目 | 期別 | 前期(36期) 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日 | 当期(37期) 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 |
|----------------------|------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 9,245 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △ 5,295 | △ 4,776 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | 6,809 | △ 1,163 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | △ 95 | 1,400 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | | 10,664 | △ 1,772 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 16,615 | 27,316 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | | 36 | — |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | | — | △ 29 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | | 27,316 | 25,514 |

株式情報 (平成25年3月31日現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 150,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 53,432,510株 |
| 株主数 | 14,554人 |

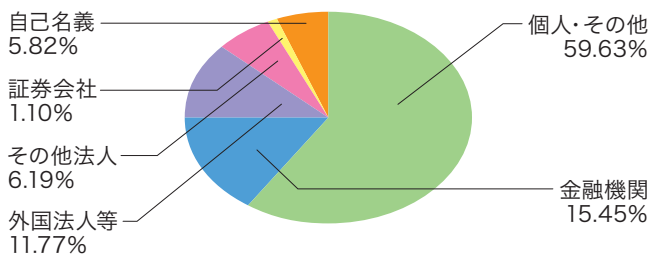
大株主 (平成25年3月31日現在)

| 株主名 | 名寄株式数(株) | 持株比率(%) |
|----------------------------------|-----------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 3,278,000 | 6.13 |
| 株式会社ソディック | 3,113,112 | 5.82 |
| 古川 利彦 | 1,195,975 | 2.23 |
| 有限会社テイ・エフ | 1,150,000 | 2.15 |
| ソディック共栄持株会 | 1,072,300 | 2.00 |
| ザチス マルタック バウ エイ ロッド エ ール ホムバ アカウ | 861,400 | 1.61 |
| 株式会社三井住友銀行 | 850,000 | 1.59 |
| 鈴木 正昭 | 726,260 | 1.35 |
| 株式会社北陸銀行 | 700,000 | 1.31 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 683,800 | 1.27 |

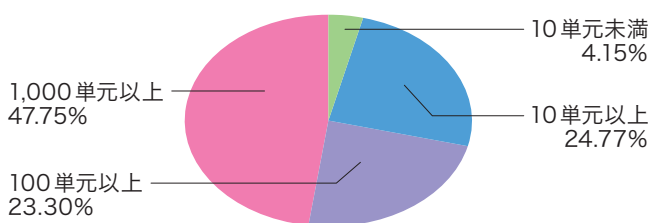
会社概要 (平成25年6月27日現在)

| | |
|-------|---|
| 会社名 | 株式会社ソディック |
| 所在地 | 本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表) |
| 設立 | 昭和51年8月3日 |
| 資本金 | 207億7,575万6,958円 |
| 代表者 | 金子 雄二 |
| 従業員数 | 617人(連結2,921人) ※平成25年3月31日現在 |
| 連結子会社 | 24社 |
| 営業品目 | 形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(バレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用工具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他 |

所有者別株式分布状況 (平成25年3月31日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成25年3月31日現在)



役員 (平成25年6月27日現在)

| | |
|----------------------|-------|
| 代表取締役会長 | 古川 利彦 |
| 代表取締役副会長 | 藤原 克英 |
| 代表取締役社長 | 金子 雄二 |
| 専務取締役(管理・総合企画担当) | 古川 健一 |
| 専務取締役(工作機械・産業機械販売担当) | 高木 圭介 |
| 専務取締役(放電加工機事業担当) | 松井 孝 |
| 専務取締役(射出成形機事業担当) | 藤川 操 |
| 常務取締役(食品機械事業担当) | 大迫 健一 |
| 常務取締役(マニシングセンター事業担当) | 佐野 定男 |
| 常勤監査役 | 楠 左衛治 |
| 監査役(非常勤) | 大木 國男 |
| 監査役(非常勤) | 下山 和人 |
| 監査役(非常勤) | 奥山 富夫 |

※監査役のうち、大木國男、下山和人及び奥山富夫は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

| | |
|--------------|--|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料) |
| 特別口座の管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 市場第2部 |
| 証券コード | 6143 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir-ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。 |

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほ証券の各本支店でお取り扱いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に登録された株式

| お手続き、ご照会等の内容 | お問合せ先 | |
|--|---------|--|
| ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ | 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料) |
| ○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等 | | 口座を開設されている証券会社等にお問合せください。 |

○特別口座に登録された株式

| お手続き、ご照会等の内容 | お問合せ先 | |
|---|-----------------|---|
| ○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※) | 特別口座の 口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/ |
| ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ | 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料) |

(※) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

単元未満株式の 買増・買取制度について

株主様のご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。